

あけび書房は、2021年の都知事選挙後、総選挙前に『市民と野党の共闘で政権交代を』（五十嵐仁、小林節、高田健、竹信三恵子、前川喜平、孫崎亨、西郷南海子／著）、22年の参議院選挙前に『市民と野党の共闘 未完の課題と希望』（児玉勇二、梓澤和幸、内山新吾／編）などを出版し、新自由主義と国家主義の自公政権に代わる新しい政治の流れを広げる発信をしてきました。

しかし、残念ながら、総選挙も参議院選挙も「立憲野党」は自公政権に勝てず、議席も得票数も大幅に減りました。

総選挙後の現在、安倍元首相の国葬の強行、統一協会問題や閣僚の辞任、物価高対策の不十分さなどで岸田政権の支持率は続落しているにもかかわらず、野党第一党たる立憲民主党の政権奪取の構想力も欠如し「野党共闘」も風前の灯火のような状況で、野党の支持率も低迷したままです。

こうした政治の閉塞状況があるなかで、「市民と野党の共闘」を出版で旗振りをしていた小社として、大敗北を痛感し、現状を打開するために何を発信するか考え、本書を上梓しました。

もちろん、日本政治の変革を問うならば、まずは野党第一党への提案をすべきではないかもしれませんが、まずは結党100周年となった日本共産党への「期待こめた提案」を出すことにしました。

今後、他の野党などへの期待こめた提案をまとめることもできればと思案しています。

また、「市民と野党共闘」というスローガンを一貫して発信し続け、そのために、いわば捨て身で（共産党の言う古い言葉で言えば）「統一戦線」に献身している共産党に、政権交代のゲームチェンジャーとしていっそうの自己刷新を期待したいと思っている人たちはたくさんいるでしょうから、共産党の100周年を祝うとともに、いっそうの発展を願う識者の声をまとめました。

著者は私が執筆依頼してご快諾くださった10人の方々です。このほかご執筆はかなわなかった多くの方々含めて、私が依頼した趣旨は次の通りです。

自公長期政権に対抗する「市民と野党の共闘」の重要アクターである日本共産党に対して、希望とともに、さらなる飛躍を期待しての要望が創立100周年を経た今、ますます強まっています。

とくに、党員が党首を投票で直接選ぶ「党首選挙」を実施することで、党内の活発な論議を国民にも可視化させて、政策・路線の意義を深め広めることを通じて、国民に開かれた民主主義的な政党としての存在価値が高まるのではないかという期待が強くあります。

もちろん、党首公選についての賛否は党内外であり、またそれにとどまらない共産党の躍進を願っての期待を込めた「注文」は多々あることでしょう。こうした多様な声を寄せていただくことで、停滞している「市民と野党の共闘」を再起動しバージョンアップへとつなげる契機となるでしょう。

本書では、共産党とともに共闘されている識者の方々として、党創立100周年を祝い、同党への期待を寄せていただきますようお願いいたします。

それゆえ、「提案」の本ではありますが、統一的な見解をまとめたものではなく、著者の皆さんには各々の見識を述べていただいています。本書が共産党とともに個人の尊厳と多様性を尊重した政治の発展に向けての一助になればありがたいです。

あけび書房代表 岡林信一